

プロが一目置く、重量工事の職人集団ⅡKS重工
技と工夫と情熱で現場に臨む。高評価で躍進中！

株式会社KS重工（代表取締役） 樺 栄道

空調や衛生・電気など大型機器を運び、据え付け 「重量屋」と呼ばれる仕事のプロフェッショナル 歴史は浅いものの、受注実績を大きく伸ばし続ける

一度目の起業—— 成功と挫折

持病を抱えながらも働きに出て家計を支え、女手ひとつで私を育ててくれた母の負担を少しでも軽くしたいとの思いから、中学校卒業後、奨学金受給を前提に工業高専へと進学しました。ところが入学から間もないその年の夏、母が突然、倒れてし

まいます。家計逼迫が避けられない事態を察し、自主退学を決意。家計に役立つべく働き口を探し、行き当たったのが、薦職人の世界でした。

携わってみると、けっこう面白い仕事じゃないか—と感じる自分がいて、没入していくように。7年ほど経ったところで、これまでの経験をベースに、足場・鉄骨工事分野での独立開業へ。23歳の若さで、経営の道へと歩み出したわけです。

世の中は21世紀を迎えたばかりのころで、建設周辺業界の景気も比較的、良かった時代です。そんな背景もあってか、受注は途切れもなく舞い込みます。たちまち30名近い職人さん・職人見習いさんたちから手伝いを仰ぎつつ、仕事をこなしていくような繁盛ぶりに。こんなにもうまくいくものなのだ、独立して良かった、と自分自身に感心してしまったのを覚

えています。

ところがそんな折に、母が他界。あまりの喪失感に心が折れて、何ごとにも身が入らなくなってしまう。せっかく始めた事業にも熱を注ぐことができなくなり、ついには自主廃業へ。ご支援・ご協力をいただいた皆さま方を結果的に、裏切るような方たちになってしまいました。この時の心苦しい思いは、なかなか捨て切れませんでした。

「重量屋」の世界で 再起を果たす

20代半ばから後半を通じて、目標を抱けぬままの生活を送っていた私ですが、30歳代を迎え、母の7回忌法要の場に臨んだあたりから、心境に変化が。自分はいったい、何のために生まれてきたのか。そんな思いに駆

られ、自身の生き様を見つめ直すようになります。

慣れ親しんだ岐阜の地を離れ、何の縁もツテもない愛知県へ出て、自分を試すことに。まずは職探し。ハローワークへ通い、見つけたのが、今につながる重量工事の仕事でした。住み込み、すなわち寮付きで働けるのなら、どんな仕事でも構わないと自身に言い聞かせていたのですが、この仕事に巡り合えたのは本当に幸運であつたと感じます。

重量工事とは、空調・衛生・電気などにかかわる大型、かつ重量のある



設備機器を所定の設営場所へと搬入し、据え付けていく作業。通称「重量屋」と呼ばれています。10年、20年と修行を積んでさえ、一人前になれないケースも少なくないほど難しい仕事だと聞かされました。それが逆に私のやる気には火をつけます。現場では、10歳以上も年下の先輩たちにさえ敬語を使って教えを請いながら、必死に技術とコツを身につけていきます。危険物取扱、クレーン操作、玉がけ、溶接といった関連資格の取得にも、必死に向き合ったものです。厳しかったけれども、楽しかったですね。

独立・再起業、法人化へとステップ踏む

仕事に就いて3、4年も経ったころ、勤務先が突然、廃業の事態に。後を継ぐ方が現れたものの、元の親方（社長）の人柄に惹かれ、手伝ってきたような立場を自覚していた私には、もはや居場所がありません。そこで、独立を決意します。すると、仲間たち3名が「付いていきたい」と声を上げてくれました。嬉しい気持ちと、荷の重さに負けそうになってしまいう気持ちは半々だったような気がしま

す。ここ愛知には仕事上、何のコネもツテもなく、仕事の確保自体に苦労を強いられるのが分かっていただけに、「残ったほうが苦労しないで済むよ」と押しとどめたのですが、それでもなお「付いていきたい」と。だったらもう、どうにかするしかない。どんな仕事でも取ってくる、たとえば重量屋と直結しない仕事であっても、当面は受け入れていく。そんな覚悟をもって、事業を立ち上げました。軽自動車2台のみの資機材からのスタートでした。

案の定、苦労を強いられました。タウンページを開き、関連がありそうな企業へ片っ端から電話で営業アプローチをかけたものの、ほとんど相手にされません。同業のお手伝いで細々と事業をつないでいきながら、かつての専任時代の知り合いを通じて足場・鉄骨関連の仕事なども取り込みつつ、経営の維持を図っていたのが現実です。

このままでは先行きに展望も開けない。お客様へのアピール力に長けた、思い切った手を打たなければ……。そんな経営判断から、まずは組織の法人化に着手。開業4年目を迎えた平成29年、株式会社KS重工へと衣替



えを果たします。また、ほぼ同時期に建設業の認可も取得。さらに大型トラックをはじめとした自前の資機材の拡充、ならびに営業・資機材待機拠点の整備（現在地）などもとり進めました。

決断は結果的に、功を奏します。かつてと同じような営業アプローチをかけても、お客様からの反応が全然、違う。話を聞いていただけるのです。徐々につながりが生まれ、受注機会の獲得・拡大へとつながっていきました。かなり大胆に、思い切って設備投資も行いましたが、これからの進展をもたらしてくれたのですから、この決断は正しかったといえます。

技術力&人材力を武器に発展、成長

新型コロナウイルス禍により、重量屋業界全体が苦しめられるなかにあっても、当社の受注量は、伸びる一方で推移。好調な業績を維持し続けてきました。お客様は上場企業も含めて数十社にまで広がっています。なぜ、これほどまでに広いご支持を頂戴できてきたのか。それは、経営方針にも掲げる「作業品質の違い」への

評価ではないでしょうか。
重量工事の現場は、一力所ごとに作業環境が異なります。たとえば、重さ数十トンもある空調機器・冷凍機器をビル階上へと吊り上げ、据え付ける。あるいは、長径数十メートルにも及ぶ巨大タンクを工場敷地内の限られたスペースに据え付ける、といった困難必至の作業も。私どもでは、綿密な事前調査を通じて状況把握に努め、的確な作業方法・手順を練り上げたうえで、適した資機材を用意して現場に臨みます。職人技そのものの作業により、正確かつ短時間での据付完了を実現。また業務の範疇にはない、据付後のダクト工事や配管工事などについても、お手伝いできる部分はお手伝いするよう、心



がけています。さらに後片付けなどの付帯作業も、責任をもってこなします。工事全体の品質保持と工期短縮に、私どもの作業が役立ち、喜ばれている。それが、高評価の理由です。
作業にあたる職人たちを、こんな大事にするのも、私どもの経営方針の根幹です。現在、30代〜40代を中心に10代、20代、50代まで幅広い世代層の職人たち、10名ほどを擁します。お互いの仲間意識をベースに、チームワークのとれた作業で現場を盛り上げてくれています。そうした一人ひとりの努力や成果を正當に評価したうえで、収入に還元して納得とやる気を引き出すことも、経営側の重要な責務であると考え、実行に努めてきました。人材確保のカードとしても、大切にしていきたい施策です。
経営上の当面の目標として、愛知県でナンバーワンの重量屋になることを掲げています。老舗であり、売上規模の面でも絶対的優位に立つトツブ数社へ、これからも果敢に挑んでいく覚悟です。いずれ目標達成のあかつきには、さらにその先へ。日本でナンバーワンの重量屋をめざしてまいります。



樺 栄道 かんば ひでみち

昭和54年生まれ、岐阜県岐阜市出身。奨学金を受けながら工業高専で学ぶも、諸事情により中退、16歳で高職人の世界へ。23歳を迎えて足場・鉄骨工事分野で独立し事業を軌道に乗せるも廃業。30歳を機に愛知県に出て重量工事に就く。第三の人生を歩み出すも、勤務先が経営破綻し、仲間3名とともに事業を立ち上げた。3年後の平成29年、株式会社KS重工として法人化、代表取締役就任

代表者 代表取締役 樺 栄道
創業 平成26年
設立 平成29年
事業内容 設備機器据付(空調、衛生、電気全般)
所在地 愛知県一宮市大和町福森字馬引境6
電話 0586-47-4567
URL <https://www.ksjyukou18.com>
資本金 500万円
従業員数 10名